WAs.OW
HQ
1104
J74+

Jan. 189
no. 249

女學雜誌

第二百四十九號
明治二十四年一月廿四日發

知盛卿の評　池袋清風
新島襄先生　某繼子
勞役　社說
德を樂む人　松村介石
こはれ指環評　不知庵

下六番町六番地　女學雜誌社

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 249. JANUARY, 24TH. 1891.

第二百四十九號目次

EDITORIAL :—Labour—Industry.

WORDS AND DEEDS :—

MISCELLANEOUS :—Men who delight to be virtuous, (Matsumura Kaiseki). Verse on the "cold moon," (Unposhi). The Greatest thing in the World.

CRITICAL NOTES :—"Poem Tomomorikio," (Ikebukuro Seifû). "Koware Yubiwa," (Uchida Fuchian).

PHYSIC :—Animals and Plants in the sea.

HOUSEHOLD SCIENCE :—On "Cold," (Yukiko).

LITERATURE :—Japanese Poem, (Anzanshi no Sha chu). On the New Year.

HUMOROUS :—The Light seeing of Tokio

CONTRIBUTED ARTICLES

NOTES AND NEWS.

CONCERNING WOMEN.

社說 言行 雜錄　勞役勤勉　金言●女學生の拂除●水島　德を樂しむ人(松村介石)●古今集中の者もの。寒月に　うたふ(雲峯子)●世界にて尤も大なるもの(しのぶ)

批評　長歌知盛の批評(池袋清風)●こはれ指輪の評(内田不知庵)

理學　海中の動植物●白粉(吉田伸子)

隨感 家政 文學　新島襄先生一週年祭の感(紫紫生)　風邪の事(ゆき子)　和歌数首(案山子の屋社中●年の始の感(室鳩巣)

笑草 寄書　東京見物　歲晚述懷(斗牛廬主人)

時事　板垣翁●左きゝ●夫婦の契約●本年の女の頭、衣裳下ばき●成瀨仁造君●女書記●インフルエンザ●謙遜

問答 新誌 通信 女報 週報

女學雜誌新年附錄ある第二百四十九號は賣切に付き候に

右附錄即ち「知盛卿」「こわれ指環」の二章のみを別に製し、實價三錢、郵稅二錢にて需めに應ず。今や好評續々踵を接して來るの際、絕版は如何にも殘り惜しく、不取敢如斯。

忘れ形見

若松賤子は去年中の小說の最傑作なりと不知庵主人の評あり、本年の女學雜誌附錄あるに付き、更に之を想ひ起して彼此と評せらるゝの人多く、注文問合の仁あり、右忘れ形見掲載せし女學雜誌には、田邊花圃女史、中島俊子女史、下田歌子女史著の詩歌小說を附錄とせし一大冊子にして定價依然六錢なり。紙部尚ほ五六十部有之に付需めに應ずることを得。

附錄女學

女學雜誌直注文の人には、毎月初土曜日に發兌する十六頁物の附錄女學を添え無代にて呈上す。附錄女學の既に發兌したるもの二號あり、一號には若松賤子女史の英文、雲峰子の長歌、小島宮吾氏の論文を掲げ、二號には安藤太郎氏の禁酒演說筆記を載せたり。右直注文以外の人には一冊四錢づゝにて賣捌くと云へども、今后直注文被成候仁は、其以前の分を右定價にて買受ることを得。但し以后の附錄は無論無代價なる事。

廣告　三番町六十七番地　巖本善治

夫人病氣の事御問合被下候方多く辱く奉存候。產后引續き不快、今以て全治不致、目下橫濱にて療養仕居候に付、左樣御承知なし被下度候。尙書狀は同人拜見することを得ず、隨て奉答致難く候まゝ、御用の趣は直ちに小生へ向け御申遣し有之度候。右同人の知己諸兄姊へ廣告す。

但し病氣追々快方に趣き今一二ヶ月も相立候はゞ全快可致見込に候、決して高慮を煩わさゞる樣致度、添て申述候。

女學雜誌 第二百四十九號 明治二十四年一月廿四日發兌

社説

勞役勤勉

西洋人の傳説に、人の祖先罪を犯しエデンの樂園より追出されたりと云ふことあり。蓋はアダムと云へる男、妻イーブの誘なひによりて、神の禁じたる木の實を食へり、之によりて男女ともに神の嚴罰を蒙むり、甘草滿ち、芳香薰し、鳥うたひ、獸戲むるゝ極樂の神園より追放せらる。時に神、アダムに言ひ玉ひけるは、汝その妻の言葉を聽きて我が汝に命じて食ふ可らずと言ひたる樹の實を食ひしにより、一生のおひだ苦勞して食を得べし、汝は面に汗して食物を食ふべしと。又た、イーブに言ひ玉ひけるは、我れ大ひに汝の懷姙の苦勞を増すべし、汝は苦しみて子を產まん又汝は夫を慕ひ夫は汝を治めんと。如此くして彼等エデンを立出で、勞苦して食ひ、艱みて子を生みにき。

かゝる傳説を、其文字通りに信ずべきや否やは一の大疑問なるべし。吾人は神學の區域に立入りて彼此と論ろふことを好まず。然りと雖ども、此傳説によりて人類太祖の悠々たりしことを幻像し、古しへは人働らかずして食ふことを得たりき、但だ罪を犯せしによりて初めて勞苦なるものあり、勞苦は即はち神が人類に與へたるの罰なりと思ふに至りては、誤解之より甚しきはなし。もし之によりて神學上の閑問題を左右するに止まらば何れにても可なり。然れども、之によりて人類勤勉の精神に大影響を及ぼし、社會運動の活器關に至大の故障を與ふるに至りては、些さか辨ずる所ろなかる可らず。

夫れ勞苦は災にあらずして祝福なり、姙娠は罰にあらずして榮幸なり。男女之によりて其義務を盡し、義務を盡すによりて身躰精神ともに健やかなることを得、其一生に益を蒙むること至大なりとす。若し男にして働らくことなくんば、不幸之より太甚しきはなし、彼は生きたりと云ふと雖ども實は死せるあり、此天地に居て樂しきこと一つもなく、終始澹々悒々として半ば土灰の如くならんとす。若し女にして孕み子を擧くることなかつせば、其女性の花は殆んど開かず、爛熳たる天眞過半其姿をかくして、心の優美、德の貞潔、未だ多く現はれず、春

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

に會せざるの寒樹、空しく蕾を落して枯れなんとす。左れば、男女世に存らへて各自その義務を盡すは、責を科せられて重く苦しむの謂に非ず、反つて業に當りて德を伸し其人品を高くするの道なり。男子外に出で丶それ〳〵の用を爲す、女子内に居て育養家政の細務を理するなど、總じて人の爲す所ろの勞役は皆な人の爲めの益あり。人間生きて若し働らかずんば、不快之より太甚しきはなし、非常の働らきを爲して苦しきは尙ほ忍ぶべし、何事をも爲さずして遊び居ることの苦しきは、天下殆んど比類なし。左れば人は遊ぶべきものにはあらずして働らくべきものなり、働らきは常にして遊びは變あり、働らきは自然にして遊びは愛相あり。吾等喜びて歌ひつ丶勞役せずんばある可らず。

魯士亞のトルストイ伯、農夫ボンダレッフの說に歸依して言へらく、勞役を見てノロヒと爲すは大ひなる誤まりあり、人が働らくことを嫌ひて他人の果を奪はんとするは、此誤解あるが爲あり、勞役は悲しみにあらずして喜びあり、神聖にして重大なる義務なり、最上の滿足を與ふるの道なり、人間その救に入るの門なりと。蓋し、如何なる道德論ありと雖ども、人先づ働らくの氣象なくば道德の効あるを見ず、如何なる社會改良論ありと雖ども、人先づ勞役するの精神なくんば、世は常久へに腐敗すべし、勞役は人と世とを救ひ導びくの門なり。

スマイルスが自助論は、人に勞役を敎ゆる所ろの一大說敎なる哉。天は自から助くるものを助くと。基督も如此く言ひ、孔子も如此く言ひ、總て人類を敎育したる大敎師は皆大率ね如此く言へり。詩人歌ひけらく、天の樂園に人を誘ふの途には、勞役と苦勞と橫はると。天地の大法、自づから人に勞役を勸めずと云ふことなし。手の細やかなる器關の上に、身躰の自由に屈伸する結構の上に、神經組織の鋭敏なる感覺の上に、血液の循環運行する四通八達の脉路の上に、「働らけよ」「働らけよ」と云へる律法明らかに銘刻せらる。左れば、働らきて暫し休みたる時ほど愉快なる時あらず、休みて働らきに着手したる時ほど心地よき時あらず、働らきて得たるパンを食ふ時ほど甘きはあらず。

吾人の働らくは、軛を負ひ鞭を加へられ、止むことなきによつて盲進するの働らきにはあらず、働らくこと即ち樂しきか故な

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

り。吾人が働らくは、働らきによつて黄金を得富貴を集むるとを慾望するの働らきにはあらず、働らくと即はち義務なるが故なり。男子は出で、働らき、婦人は家に働らき、働らき了りて、天の與ふる正當なる安息を取り、或は夕顔棚の下に冷風を迎へ、或は土曜日夜に火爐を圍むの時、人世の喜こび果して何如ん。此邊の快樂は、王侯肉食の人の得て味はふ所ろにはあらず。

吾人は今ま二種の働らき手あるとを見る。一は只だ慾の爲に働らくものあり、如此き人は働らきによつて德を進むるとなし、働らきて利を積み來れば、私慾はいよ〳〵積む、未だ到底眞正の働らきを爲すものにはあらず。他の一は、働らくとを以て人世免れ難きの一大重罰と見做し、すでに生きて食ふが故に止むとを得ず勞苦せざるを得ずと思へり、如此き人は只だ其面に汗するのみならず、心にも厭倦を抱き、世界を一大懲役の塲と見て、上帝のしもとの下に苦役せらるゝとと思へり、之れ實に大ひなる誤解と云はざる可らず。世人大率ね誤まつて前說を執り、宗教家暗に迷ふて後說を信ず。ともに吾人の服せざる所ろなり。

吾人は勞役の爲に歌はんとす、樂しき哉、樂しき哉、人世の勞役あるや。之あるによりて吾人は朝々暮々のうつり變りを最と樂しく送る。日の周るが如く、月の登るが如く、鳥の駈るが如く、吾も亦た喜んで働く。吾が働くは徒らに働くにあらず、是れ吾が當然の道なるが故なり。吾が家には働らくとを樂しむの家風あらしめん、わが國には勤勉勞役を樂しむの國風あらしめん。歌に云はく、

一。いともいそしめ　みちのともよ
おけるしらつゆ　きえぬまに
まつまさへなく　夜は來たれば
あさ日てるまに　いそしめよ。

二。いともいそしめ　みちのともよ
のぼる日かげの　かゝやくま
すぎゆくときは　矢より早く
夜の間となれば　いそしめよ。

三。いともいそしめ　みちのともよ
にしにしづめる　夕ひかげの
かすかにのこる　ひかりのまに
わざなしおへて　いそしめよ。

言行

○制度と人　チスレリー曰く、吾等は餘り多く制度に重きを置き、餘り少なく人物に重きを置けり。

○忍耐　ラスキン曰く、忍耐は幸の内の尤とも美くしき尤も價ひあるものにて亦尤も類ひ稀れなるものなり、惣ての幸福及び總ての力の根底には必らず忍耐ありて存す、もし忍耐なくんば、希望も幸わひにはあらず。

○教育　ギッボン曰く、教育に二つあり、一は人より受る所ろの教育是れあり、二は自ら與ふる所ろの教育是あり。

○憂鬱　マウント、ホリヨーク女子大學の創立者、メレー、ライオン女史の曰く、凡そ人の憂鬱となるは、人の事よりも己れの事を多く考ふるの時なり。

○貧富　ソロモン曰く、自から富りといひ現わして些少の所有もなき者あり、自から貧しと稱へて資財多きものあり。

○貧の苦　イルビング曰く、貧の苦しきは、貧しきとの苦しきにはあらず、貧しさを人に現はさゞらんとすると即はち苦しきあり。

○女學生の掃除　みどり

むかし或る支那人の言葉に、われは天下を掃除すれども家の内を掃除せずと言ひたるとあり。太田錦城之を許して、かゝる人は決して一小國をも治むると能わず、其失敗すべき由縁はすでに其言葉の中に現われたりと言へり。女學生が只だリードル若くは小説など讀むとに誇りて、家の内の掃除炊燒を輕んずるに至りては、以ての外の心得違ひあり。小さきとに忠やかならぬ人は、大事に臨みて尚更誠あらず、家の内すら片付けがたきものは、大ひなる仕事を處置するに一層の失策あるべし。

○水鳥　もみぢ

水の上に浮み何さま些との苦しみも無げに泳ぎ戯むるゝ水鳥を見れば、人誰か其の逸樂を羨やまざらん。特に知らず彼が足は終始水を搔きて寸時の暇まもなきとを。古人心中の苦しみを之は比へて人のわが思ひを知らざるに喩ふ。蓋し人は互ひに察せず、暴りに邪推を放つて他の心中を暴斷し、自己獨り賢明なりと信じて、徒らに同情の交らひを破る。あゝ、人間以上明察々の神なくんば、われは何如に世に安んぜん。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

雜録

徳を樂しむ人

松村介石

右明治女學校講談會にて演述ありしを社員安藤種子が筆記せしものなり。

女學雜誌に彼談をしまして、其後病氣で終を結ぶ事が容易に出來ませんからアノ續き樣の事を演説で、口で述て呉れんかと云ふ事で、口なれば文字で並べるより不完全ながら、夫ぢや考へて居る事を申して見ヨウと云ふて、出掛たのです。之は女許りでなく、男子に對しても同じ主義であるので、不肖ながら是迄男子の學校に數年の間徳育の事をヤツて居りましたが、やはり同じく此考へでヤツテ居りました。先づ四ツの區別を之に立てました。第一は、徳を好まない人之は一番道徳上から云ふと人間の下等で厭な仲間であります。其次は、道徳に意を留ぬ人、此人は憎氣はない、私の樣な最も搆はん人であるとソーユウ人とすぐ心易くなります、如何なれば、ソーユウ人は、氣儘吾儘身勝手なれ共、心は天眞ですから思ふ通りの人である、忌なら忌、好きなら好、少しも飾がないのであるから、私の樣な風の人は、あまり憎くも思ひません、然れども、人に依ると極く厭がる、コーとかア、とか云ひますが、又あまり上等の人物でもない。第三はあなたがたは或は御經驗がありましよふ、實に夜寢前に胸に手を置て、一身を省みると、誰も居らんが、壁に對しても恥かしく、神に對して、恐ろしく、知らず〳〵自分の頭をさげて祈禱する、而して生涯の道徳を進むる事を熱心に感ずる事が、度々ありましよふ、是はまことに貴くして、如何にも感ずべき賞ずべきと此世界に多くの人があるが、其人々が一生のうちに一度デモよろしひ、夜る密かに手を組んで自己を省み己れを責めて進むと云此心を有たる人は大丈夫です。此力めて徳を脩むと云ふ事許ではドーモ未だ足ない心地がする、なぜなれば罪を悔ひても、又悔べき罪が來りて嗚呼われなやめる人なる哉とポーロが言た通り、失望する事が起ります、dutyと云ふ言辭は貴きものである、けれどもdutyばかりでは究屈で、人間がアクセクとなつてしまふ、一歩進で樂んで仕樣と云樣にあらない、支那などでも、賢者は勉て成る、從容として道に當るは聖人なりと勉てある、之は第三の種類である、從容として道に當る、即ち第四種の人である、究屈で勉るのであく自ら樂んで道徳を行ふのである。ソーユーと問題が起る、吾々はドーして

聖人になれるものか、そんな筈がない、聖は吾が得て望む處に非ずと、云ふ問題が起こるが、ソーデない、或宗派の敎ゆるに、人間は墮落した者で、一人も自分の力で善をする事が出來ない、母の腹から罪を以て來たと云ふ、ソコデ、ウイルヤム、チャンニングが躍り出て、凡そ人間は墮落した惡性であると云ふものは、人間の敵である、職人も下等人民も善を好み善を喜び道をたのしむ事が出來ると云ふて、下等社會の說敎者となり、大に其功を奏しました、ドンナ人間でも、善を樂しみ德を喜ぶと云ふ本性をもつておる、之愛をもつて居る、此が人情である、人の性である、duty責めに義務的許りに命令してコーせよアーせよと器機同樣にせられなくとも、樂しむで之をするとが出來る、善を樂み德を施すとが出來る、己れの心のなかに善があるです德があるです、此處に土臺を置かねば脩德を樂しませる德育の法案は立ちません、之を說きわかす爲にいろ〳〵のお談をしたい。私の小き時分に、母親がきかして吳れた談の中に、是は本當の談で、小說ヂャない、私の生國に近き一谷の邊である、此處に、もとは隨分よき人でありましたが、段々落ぶれ而して小さき家へはいつた、一家族があつたが、不幸の上に其息子が死んだ、まだ二十五六の盛りの息子が、そうすると活計を立てる事が出來ないから、嫁は亡てしまつた、あとに六歲位になる女の子が殘る、祖母さんと祖父さんと此孫と三人で仕方がないから方々に貰ひに行く、乞食になつた。祖父さんもワラヂをあんで居る、モー親類はつきあはない、無心にでも來られると困るから、處が其祖父さんキカン氣の親父であつて、ナアに賴むものかと云ので、友達にも却てコッチから見向かない、親類にも足踏しない、ヲレが倒れる迄は喰ひ凌ぐと云て、夜の二時頃迄も祖父さんは、瘠せた身躰にぼろを着て、ワラヂを編んで居る。ソーするとあるばん大きな男子が、寒いからあたらして吳れいと云てはいつて來た。寒い夜にあかりがあつたから、はいりこんで來たので、祖父さん喫驚して誰樣かと云と、己は泥棒だと云ふ、ソコデ泥棒はさむひからあたりながら、家の樣子を見る、祖父さんは穢き風をして居る、傍には祖母さんと孫がぼろ席をかぶつて寢て居る、此樣子を見て溜息をついて、泥棒の云には、ドーもわしはコーして惡い事をする、人の金を盜み取るものだが、矢張り美い物は着て、甘い物は喰て居る、マ祖父さんはドーユー惡い事をしたかと云たから、祖父さんが談なして聞かせた、今の有樣、人情の浮薄、世界の頼

み少い事、いろ〳〵あはれな事を談して聞せた、ソーすると泥棒が歸りに默て、金を落して行くから、祖父さんは氣が付て驚いて、コリヤ泥棒に金を貰ては大變だと、早速追駈て行て、之は實に難有い、御志は有がたいが、若し后日に分かると大變にあるから親切は忝いが是斗は御助けだから返て行て下さひ。ナニ夫は搆ふ事はない、誰も知りやしない己は言ふ氣遣なし、御前も默て居たら宜ジヤないか、けれども、あんまりつかひ樣が惡いと知るから、コーユウ風にして、祖母さんと御前と、此處に居チヤいかんから、早く此處を出て、何々とか云ふ處に行き、ソコに御前がワラヂを編む、店のさきに菓子でも豆でも置て、商賣するがよいと、其まゝ逸足で行ッてしまつた。夫れから祖父さん家へかへつて、祖母さんに談すと、祖母さんは慾があるから夫ヂヤいーじやろかと云て、警察へも屆けず、其金を以て、其通にした處が、幸に繁盛して、終には茶店をも開き、私の居た時分には、彼の孫をも學校へやつてゐたやうです。かくて其後此泥棒もしば〳〵來たが、段々聞て見ると、おもしろひ泥棒で、度々ソンな事をして人を惠んだとがあると云ふ、夫で、其泥棒に何か、祖父さんが或時ドーゾあなたも若い、三十七八だろふ、ドーか泥棒だけは止めて下さい、

七

私は、何にもあなたに御恩がへしは出來ない、若あなたが牢へでもはいるか、首でも刎られると、此孫に御恩がへしをさせる事も出來ないから、ドーゾ泥棒を止めて本當の業に付て下さいと云ふと、泥棒は其の眞意に感じたものか、涙を流いて懺悔ばなしをして、私は十八年に國を出て、父母を見捨て出てしまつたが、今爺さんの意見をきくと、阿父に遇たやうな氣がすると云て泣いたそふですが、其後は來なくなりましたとか、泥棒を止たものか、刑にあいしものか、其邊の處は分りませんが、何にしろ此泥棒でも人のあはれを見て、本然の善心を動かさなくてはをるとが出來なかつたのである。此の泥棒の慈善は利己的でない、義務的でない、天眞自然の德性から出たのである、一方から見れは惡人でも、かよふの塲合にはかほど人をあはれむ樣になる。脩德を樂しませる德育は即ち此處より始むるのである、此處は眞正德育の據ろである、政治家の命令より出るのでない、經典の講義より出るのでない、己れが好な事をすると云ふ心より興るのである。モ一ッ私の知つてるとで例を擧て話しますが昨年新潟が饑饉で米がない、今日も昨日も飢死がある、一週間おかゆも食ない者があつた、處で、此に悲酸極る、一例を擧て見ましう。もとは

巡査で、妻と子と己と三人の家族がありましたが、とふ〳〵一週間かゆも喰ずに居りましたが、子も泣き妻も泣き、愈々仕方なくなりましたから、其妻と相談して、食へんが悲しさ、子を殺すのが可愛さに、夜半米屋へ泥棒にはゐり俵を一俵かつひで出やうとしたが、力がないから、倒れた俵に壓さへられ喚て居た、其物音に驚き、亭主内より出て見ると、瘠せた奴が俵に壓へられて居た、ソコデ米屋は博愛厚德の人ではないが、ドーも其有様を見て、憫然に思ひ、夫ヂヤ之を御前にやる警察へ訴もしない、巡査に渡しもしない、どうぞ之を持て歸てくれと云ふと、力がなくつて持てないと云ふから、ソンならわしがかつひで持てやると云ひ、夫れから米屋の亭主がかつひで送つて行つた、さしては入て見ると、びつくりした、そこらが血だらけになつて居る、ドーしたかと見ると、妻は咽喉をつゐて死んで居る、子も死んで居る、察するに良人が出て久しくかへらないから、多分捕れたのであらふと思ふて、先つてしまつたのであらふ、實にひどひ談だ、夫から米屋の亭主はびつくりして、ぼんやりして居る、巡査は之を見て、モ、ドーも私は生き殘れんから、其米は御親切は忝ひが、まだ外にも、もつと、ひどひ人がいくらもゐるから、其人にやつて下さいと、云ふから米屋の亭主は吃くりして、何にも言はないで家へにげてかへつてしまつた、あとで其巡査は同じ刄で死んでしまつたです。サテコーユウ時には、ドンナ人でも、貪慾な者でも、第一種類のものでも、哀れに慈悲の心を起すものである、ソシテ此心は總ての人に在るものである、此人にはあるが此人にはないと云ふやふなものではありません、あわれな貧乏人の談をきくと、誰れでもかわいそうに思ふ、病氣でうごめいて居るのを笑ふものはありません、政府が壓制して人民が塗炭に困しむ慘狀を見れば、革命の心自然に起る、又誰れでも、犬殺が通ると犬を逐ひます、德も何にもないが、ドーかして犬を助けてやりたいと思ひ、車夫迄が犬を逐ひます、犬が逃げて犬殺をさけると、ホート云て滿足して居ります、此處、此處が即ち所謂る樂善好德の門であります、眞正德育の根據であります。

今第一種類の人を見ますと、あれでも愛を好んで居ります、人から好かれるを好みます、又人に尊恭される事は望みます○凡そ愛なくフレンドレス程、アヂキなき事はない、彼等は愛して貰らふとしても人が愛して呉れん、ソコデいろ〳〵僞善を飾つて愛してもらふとする、そして其だから益々愛せら

れなくなる、氣の毒なものである、然し愛を好むは一なるが故に、萬一眞正の愛即ち我所謂善徳の樂みを味ふときには、再び第一種に復ると能はず、自然第四種に留るものとなる。

第二種類の人になつては、甚だ失敬の例を出して置きましたが、隨分ア、云ふ人があります、人を丁寧にしない、其人の友人が來ても、氣に入らん人が來ると不あしらひにする、ソーすると誰も來なくなる、アスコへ遊びに行こうヂヤないかと云ふとドーも彼奴の顏がふくれつらだからと答ふ、ソーするとさむしくなる、成程厭ふ人が來ないから氣樂か知らんが、けども人の來て呉ん、搆つて呉れん程苦ひ事はない、然るに之に反對して花の咲いた樣な家族にはいつて見ると、何處となく春景色て、滿家馥郁と匂ひがして居る、朋友は樂んで話しに來る、赤子はにこ〱笑て抱かれて居る、遠人はくつろいで休んで居る、悲しむものは慰められんとて來り、苦むものは樂しまんとて來る、實に愛と親切にて滿て居る家族ほど樂きものはない、ソコデ此の樂みを味ふと即ち一トたび此等の愛を知ると、第二種類の人物も凡てに盡す事が違ふてくる、樂がかはつてくる、夫婦、親子、友達の眞愛が分つてくると、本の邪慳がぞつとするほど厭やになる、なぜなれば人の性はソンナものではない、愛を得て始て滿足するものであるからである。

寒月にうたふ（新撰讃美歌百四十四番の譜）

雲峯子

一夜窓を開ひて仰ぎ見る、風既に絶えしが、寒氣更に强し、霜、地に滿ち、明月天に懸る、萬物茫乎として見難し、獨り月のみ明光を上天に弄す、豈之を望んで感なきを得んや即ち筆を採つて一曲の歌を作る、是讃美歌百四十四番の譜に從ふ、蓋し平常愛誦する所なり、若夫れ歌の意に至つては實に厭世の心を述ぶ、樂天を唱ふる人難ずるあらば人の感想の同じからざるに由ると答へん、余は余の感想を述ぶるのみ、讀者乞ふ音節を附してうたへ、蓋し七五の調にあらざるが故に音節なくんば讀み易すからず。

一　世のなみ路を　たどるひまに
　　こゝろのうちこそ　にごりにけれ

二　つみのために　目はくらみて
　　むなしきことのみ　見えわたりぬ

三　あだのあいを　育てるゆゑに
　　あだなるあいをば　たのみてけり

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

四　あまつかみの　つかひのごと
見えつるすがたぞ　あくまなりき

五　たゞしきごと　かたることも
いつはりぞおほく　たのみがたし

六　ゑみのうちに　やゑばをとぎ
ほむること葉にも　そしりを有つ

七　ほまれのなも　くものごとく
きえてあともなく　なりやはてなん

八　ひとりわたる　あじきなき世
そでにちるなみだ　見るひともなし

九　あれのにまよふ　ひつじとなり
こゑあるかぎりに　よびさけびぬ

十　あさけふかき　みかみならで
かへり見るひとも　あきぞかなし

十一　そらにさゆる　つきのごとく
きよきこゝろをば　もちてしかな

十二　かみよわれは　みざにゆかなん
つみふかき世より　すくひたまへ

世界にて最とも大ひなる物　しのぶ

世界にて最とも大ひなる物は何なりやと、先頃我國に渡來したる靈界自然法の著者ヘンリー、ドラモンド氏は問へり。自から答へて云はく、其の最とも大ひなる物は、愛なり。愛は信仰よりも大ひなり、何んとなれば目的は方便よりも大ひなればなり、夫れ信仰の目的は靈魂を神に交ゆるにあり、左れば斯く神に交ゆるの目的は他なし、人、神の如くならんとを欲すればなるべし、而して神は愛なれば、初より愛あるほど大ひあるとはあらず。愛を分析せば、九つより成るとを知る、即はち、

忍耐　愛は忍ぶものなり
信切　また信切あり
寬容　愛はねたまず
謙遜　愛は高ぶらず誇らず
禮節　非禮を行はず
無私　己の利を求めず人の益を圖る
善良　輕々しく怒らず
無惡念　人の惡しきを念はず

眞實　不義を喜ばず眞理を喜こぶ

宗敎は別に異なりたるものにあらず、たゞ俗世界の上に天の氣を加ふるものにて、惣べて備わりたるもの丶上に磨きを與ふるに似たり。人の心は其酸氣を搾り出して之を甘くするにあらず、之に一物を加へて甘くするあり、其加ふるものは新しき靈にして即はち愛なり。世界は遊歩塲にあらず、學校なり生涯は安息日にあらず、一つの敎育なり、吾等が永久に敎へらる丶處ろの敎科は「何如にわれ等人を倚好く愛せん」との考案あり、扨て玉突の上手は玉を突くによりて也、音樂の上手は音樂に慣る丶によりて也、人は何如にして能く愛するものとならん、他なし愛することを修業するのみ。宗敎の目的は宗敎くさきにあらず、愛なり、終の日裁判を受んとき、われ等宗敎臭きにより賞められじ、たゞ愛あるによりて賞を受けん。光線を分つときは七色となる、愛を分析すれば九つの性質となる、左れど七の色を合すれば但だ白色となり、彼の燦めく所ろの光線とはならず、所云る九つの性を合わすれば、德となる、然れども愛と云ふとを得ず、愛はたゞ基督を知るより生じ、生命に與へられたる燦めき光る所ろのもの也。

批評

長歌知盛卿の批評

池袋清風

薩摩舊藩の風習專ぱら武勇を好みたるは世人の熟知する所たり。予が生鄕日向の西端、固より小邑なれども、猶薩摩領に屬するを以て、風習の感化亦能く兒童の肺肝に浸潤す。予幼にして勇膽ならず、寧學問を好む、而も慷慨の情深く、古代の英雄を思慕する、中々他の勇膽ある兒童の上に出づ。時に友童と戰爭の眞似を爲す事ありき。友童中に源氏の末葉あり、即ち予を詈つて曰く、汝平家の落武者、宗盛が後胤臆病者、能く我に當らんやと。予之を聞くや、切齒悲憤に堪ず、蹶地暗に戰ふ。竊に慨嘆して思へらく、平家に淸盛の暴惡あるも猶可也、唯彼怯懦なる宗盛なくば、假令壇の浦にて敗滅したるも、今日此嘲辱を受けざるべきをと。大に重盛の忠孝を尊敬し、知盛敎經の義勇を追慕し、賴朝義經を憎むこと夷賊の如し。其感情猶今日に存す。而して今回女學雜誌第二百四十六號附錄に知盛卿の題にて長歌あり、雲峯子の作に出づ。予

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

一閱覺えず涙を揮ふ所あり。雲峰子は我社友最も和歌に熱中するの一人也、又予が最愛の良友たり。詩歌は感情に基く、今幼より追慕する所の知盛卿を題にして、最愛の良友の、作りたる歌を評す。其評或は正鵠を失ふの恐あらん。然れども、予も亦歌其物に於て巧拙良否を聊識別せざるに非ず。思に作者は其生涯を以て計るときは、猶青年初學の部たり、又自ら繁忙の位置に在り、一夕即座の作也、且目下養痾中也、固より拙劣ならざらん事を欲するも得べけんや。依に予は未之を老錬熟達の作とは謂はざる也、辭句中無理の難なしとせざる也、然れども比較的を以て之が優劣を評せば、今日は全く和歌の雅味を識らぬ英學者或は小說家など、口から出放題の辭句を排列するあり、其拙劣にして雅俗の別なく、詩歌の感なきのみならず、前後片々起承合の法もなく、意義も解する能はざる、恰も癲狂の言語を聞くが如き者、陸續出るの時也。斯る類と比せば、固より同日の論にあらず、辭句優雅にして、自然歌の風調を顯はす、是れ他なし、作者常に古來の短歌を學び、一辭の雅俗、一句の排列、敢て之を輕忽にせざるの道を識るに在るのみ。即ち、予が常に世人に向つて、若し我國歌を發達し或は歐米のポエトリを意譯せんと欲せば、必先づ古來の和歌を學び、雅味の精妙に通ぜざるべからずと言ふことの空論にあらざるを證するに足る。今作者に、十年の日月を與へ詩賦を作るに清閑の時と所とを供せば、當に國歌發達すべきの世、或は視るに足るべき者を著すことあらん。

こわれ指輪を讀んで

不知庵

新年附錄のこわれ指輪、近頃面白く拜見仕候、昨年若松夫人の御作を拜見せしと、仝樣の感を起し候、まことに花園女史出現の頃には、いたく世の中を驚かせしも、僅に二三年ならずして、數多の女流小說家、追々に現はれしは、唯に女性の社會のみか、文學上祝すべき事に候、殊更此篇の如き、秀麗巧緻の作を見るは、新年の吉兆、實以て嬉敷候。

結構の巧妙といひ、文字の流麗といひ、共に類稀なる佳作にして、英國現時の、アレキサンダー、ケアド等の、女流小說家に讓らざるほどにて候、元より奇峭、深刻等の形容詞を、與へにくゝ候へども、與へられぬこそ、女性を表明するものと存じ候。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

其理想も純潔にして、輕浮の傾き毫も見へざれど、惜らくは、自叙躰なるが故に、作者と「私」なる人とを混同して、かくては作者の見識を、下ぐるならんなど、役にも立たぬ心配に、眉を顰むる點、二三有之候得共、勿論作者は、「私」なる人にあらねば、斯く申すだに、餘計なる事に御座候、若し此「私」なる人をして、せめてリチャードソン、のパメラ、にても讀ませしならんには、斯る憂はあらざるものを。
爰に御一問致し度は、此ノベレットの主人公は、「私」なる人にて候や、それとも、「私」の夫にて候や、若し「私」なれば、愈々のことりをしく候、又「私」の夫なれば、咄、此ベーヂ破りすて申べく候。
兎に角、初めての御作としては、天晴の御手際にて、誠に末恐ろしく、膽を挫がれし心地仕候、軈て行末は、我國のサンド夫人ともなり給ひて、社會に、一紀元を開き玉ふ事と、壽き申候、かしこ。

つゆ子様

内田不知庵

理學

○海中の動植物

吉田伸子

ヒメレヤ山の頂には人跡なくゴビの大砂漠には樹木を生ぜざるが如く、海中に生活する幾千万種の動植物も亦、海でさへあれば如何なる場所にでも繁殖すると云ふ譯にはまいりませぬ。先づ陸地近傍の海なれば、深さ二十丈位までが動植物の繁殖して居る區域で、就中海藻は、海岸より始まりて八丈の深さの所に多く、百三十丈以上の深さの所に至れば海植物は極々稀です。

○白粉

アフリカの黒奴は色の黒きを美人となす、故に身に煤など塗りて、マー見て呉れと云ぬばかり、北海道の「アイヌ」は蝦夷錦を着飾りても尚ほ飽足らぬか、顔に幾何學的の曲線を黥して美人を氣取る。此世界で我は文明人なりと自稱し玉ふ方々は、此等を見て嘲笑の種となさるれど、己れが同胞の中にも顔から頷、胸、背にかけて、白粉と稱するものをコテ〳〵と塗り立て〻居るものあるを見ては、却て美なる感が起るなど〻

は何事です。抑々白粉は何でせうか、我國の領白粉は炭酸鉛からなり、顔白粉は酸化亞鉛に澱粉（葛粉などの類）を混ぜた物です。ソシテ皮膚は如何なる生理作用をするものでありますか、肉の上を覆た皮には相違ないが、此物は血中から多量の水と、老廢した固形物とを躰外に排泄するのみならず、其上に、塗られた物を吸收む作用があります。斯樣なる作用あるもの丶上に、白粉を塗る、有毒なる鑛物の粉を塗るのです、其結果はどうでせう、惡ひ蒸發氣は皮膚から排泄さる丶ことなくして躰内に滯り、有毒な炭酸鉛は皮膚にありて吸收さる丶のみです。加之、炭酸鉛の白粉を塗り立て丶、噴火山の近傍とか、化學者の分析室とか、又ははゞかりなどに永居しますれば、白粉を塗た所に化學的變化が起ります、乃ち以上の場所の空氣は、通例硫化水素と云ふ氣躰が混じて居ります、然るに此硫化水素は炭酸鉛に作用して硫化鉛を生じます、ソシテ硫化鉛は黑色の物ですから以前白粉の爲め白かつた顔や領が、今は白粉の爲め却て黑くなります。但し此黑ひ顔でも矢張り美たることは失はない、——若しアフリカに行くならば。

隨感

新島襄先生一週年祭の感

英雄の起る所地形好し（下）

雲峯生

今來古往史乘に徵して知る、此地は是英雄傑士踵を接して顯はれ出しを、若夫れ國亂れ、人騷ぎ、天動き地驚きし時世に溯り、山崩れ、地裂くるの間に立ち、萬軍を叱咤し、千馬を馳驅したる英傑偉人の如きは勝て數ふ可からず、悲歌、慨嘆義に勇み、忠に勤め、王威の衰頽を悲しみ、人心の敗滅をなげきし正人忠士の如きは勝て數ふ可からず、否遠く過去の時代に屬する英雄、豪傑、忠士、義人の如きは既に人の知認する處、余の詳解明辨を要せざるべし、吾人は只近代の英雄、古今に比類なき一偉人の此地より出でしを殊筆して世人の明かに記臆せん事を望まんとす。

東洋古今英雄を解説して曰く、敗德好色の磊落漢ならずんば、天下萬民を籠絡謾詐する政略家なり、大功は細瑾を顧みざる

の僻人物に非ずんば、奇計奸策を以て私利に營々たるの利己者のみ、己れあるを知つて他あるを知らざるの人なり、姦智に長じ、惡意を含むの人なり、嗚呼英雄の本領ならんや、義人の眞面目と云はんや、是亂世の英雄にして、治世の奸臣、若くは治世の能臣にして亂世の奸雄たるべき僻人物のみ、如何なる時代に當り、如何なる境遇に處するも英雄たるもの即ち眞の英雄なり、詩人として、宗敎家として、敎育家として帝王として現出するもの等しく英雄義士たるを得るは今更云ふ迄もなし、豈赤髯白顏の文人を待つて後に知らんや、されば平世にも尙英雄起り、治世にも義士あるを知らざる可からず。

文化開明の時代に於て前世未だ比類を見ざるの英雄此上毛の地より出でぬ、德萬人に秀で、偉性今古に絕出す、名聲未だ海内に偏ねからず、事業未だ高大なりとなさず、然れども余は信ず、世人が其偉性を認め、英雄と崇拜するの時期、早晩必らず來るべきを、余は其人を知るが爲めに過讃せず、其人を崇ふが爲めに過稱せず、否余の不肖無似ある其偉性を害ふあるも未だ其人を稱讃する能はざるを恐る、然れども余此地に至り、遇ま以て感ずる所たり、默して止む能はず、此地此人を出すと大聲せざるを得んや、余は其人を見て宗敎家として亦敎育家として英雄と崇拜す、然れども其德義の高潔なりしを見れば聖人とも云ふ可く、萬人を威服せしめしを思へば明かに將師の才能ありしを察すべし、禹稷顏回時世を異にし、行爲を異にす、而して孟子は云ふ、禹稷顏回道を同ふすと、知るべし、英雄聖人の起る時代の如何を問はざるを、余が近代の一英雄を見て愈々之を確信す、其英雄とは何人ぞ曰く新島襄氏とす。

英雄に非ずんば英雄を知らず、聖人に非ずんば聖人を知らず余豈新島氏を知れりと云はんや、只其偉性と英雄たるとをかすかに認知するのみ、然れども如何に斯くあるやは知らず、恰かも高山巨岳の下に到り、僅かに其高大なるを知り、未だ如何に高大なるか如何ある山岳かを知らざるが如し、然かれども氏が英雄偉人なりしに於ては決して疑はず、古來東洋の解明より、機智に富み、策畧に巧みなるものを、以て英雄となさば新島氏は寧ろ聖人と稱するの當たれるに如かず、されど余が英雄を解するの意既に先きに述べしが如し、豈新島氏の偉性を疑ふを是せんや。

山岳愈高ければ雨風の犯す事ますく甚し、人間亦然り。雄偉衆に傑出する事高ければ敵人亦之に反抗する愈强し、人夫れ知らざるか、最も嫌悪すべき刑に死せるユダヤの英雄は最も是高潔完全の人なりしを、然れども風雨如何にあるゝも高山大岳依然たり、衆口聲を同ふして罵嘲するも英雄之が爲めに害せられず、否益反黨敵人の爲めに顯はる、蓋し金玉は之を磨するの時に明光を發し、正義は害迫あるの日に强ければなり、されど世の小人小智を以て英雄を推し、姦人姦意を逞ふして義人を毀つけんとするに至つては余亦嘆ぜざるを得ざるものあり、嫉妬心裏毒刃を含むの人、道ふを休めよ、英雄必らずしも機心ありと、小智奸悪の輩、疑ふ勿れ、義人或は偽善あるなきかと、若嫉妬の心、疑惑の思ひあらば、自ら反省して其小人物、僻人物あるを知れ、徒らに嘲罵して偉人を非議するは恰も是ライフル銃を揮つて大艦巨艨を繋ぐが如し、何の益をか爲さんや。

余は既に上毛の地に英雄豪傑の著しき者を出せしを見る、而して熟々其の所以を察するに一の原因あるを見る、曰く士風、即ち是なり、聞く歐洲に在て中世士風の熾なりし事、今日尚社會萬般の上に影響を殘すと、余は上毛人士を見て亦此感なくんばあらず、所謂俠客風なるものは思ふに士風の一變せしものならん、俠客の風義概して不可なるが如しと雖も、其心中を察すれば自ら一種の美風なくんばあらず、其義を守つて泰山の如く動かざる所、弱を憐れみ强を挫するの所、相互情交の密なる所、皆是美風に非ざるなし、偶ま以て邪道に迷ひ、不義を爲し、罪悪を犯すが如きは是美風を誤用せるに過ぎず、爲す人自身に於ては無邪氣なり、之に由て見れば一種の美風義氣の山水明眉の間に磅礴するを知るべし、此氣此風時に激して英雄を出し、偉人を生ず、山陽が新田氏を論ずる文に曰く、數奇敗衂、終至消亡者無他故也、天下厭苦朝政、而謳歌武治、故利尊氏之營私、而不便義貞之奉公、(中畧)嚮使義貞亦出足利氏所爲、則介冑之族將雲合霧集而歸之、而足利氏焉能加之、天下事、皆可圖也、何至困踣如此哉、是其禍福利害雖三尺童子、亦能知之、義貞寧有不知、而終不改其節者、豈非以己任王家依賴不忍倍畔也邪と、其義志忠意凛乎たり、高山、新島兩氏の如き例證を要せずして其人品を想察するを得べし、嗚呼上毛の地實に義氣美風のあるあり、古來幾多の正人義士、據て以て功を爲せしは偶然に非ず、英雄偉人の輩出せしは偶然に非ず、

余は如何にして一種の美風此地に起りしかを知らず、されど維新革命に先だち、封建の制未だ倒れざるの時、此風趨つて愈熾に行はれ、他國と境するに三面山を以てし、往來に便ならざりしが故へ、他境の異風に化せらるゝな、久しく一國の風となりしならん、語を更めて云はんか、地理の形勢よく美風を

JOY TO THE WOMAN

本號餘白なく小說相休

浮雲胸（新作小說）雲峯子

右次號より掲載可仕候

維持し得たるに外ならず、清流混々晝夜を舍てず、峻山巍々として千秋變はるなし、東部原野茫々たるものは夫れ或は偉人をして寛容の心を養はしむるに足らんか、利根の水、碓氷の山、英雄の起る所地形好し。

家政

風邪の事

ゆき子

風邪と云へば寒氣に感じ、幾分の熱を生じ、鼻、口、喉、頭、若くは氣管に多少の痛みを生じ、鼻汁出で、セキする毎に痰汁を出す等の病を總稱して云ふ。若國內多數の人民中一年の間に風邪に罹らぬものあるかと問へば思ふに甚だ少數なるべし、何人も一年一度位は此病に犯さるべし、斯の如き病なるが故に其原因を究め、治療法を發見し、亦豫防法を講ずるは時節柄必要の事と云ふべし。人晩年に至りて種々のカタル病を引起すは要するに度々風邪に罹りし所以なり、殊に氣管支カタル、咽喉カタル等にかゝるもの多し。偖風邪よりして斯る恐ろしき病を引起す事ある故常に風邪に犯されざらん樣注意すべし、成人と雖へども等しく豫防法をつとむべきものなれど殊に小兒の間は之を避けん爲め、兩親若くは乳母の注意を怠る可からず、風邪の原因を知らざれば之を防ぐ事も講じ難し、故に今其原因を說かん。原因に二種あり、直接の原因と間接の原因と是なり、或は近因、遠因といふ。遠因とは身躰弱くして風邪に罹り易き事、亦鼻、喉、氣管等の痛み易きこと等

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

なり、近因とは風邪に罹る場合を指して云ふ。

遠　因

兵士の勇氣衰へたる時は敵の侵撃する事容易なるが如く身躰に於ても弱き所あれば全身衰へ、風邪に罹り易し、故に身躰を衰へしむる事は凡て風邪の遠因なり、此事につきて精しくはいはず、只小兒の事につきて一言せん、小兒の間は身躰全部柔弱にして大人ほど寒氣に堪へ難し、されば眠りの不足、食物の粗惡、衣服の不適當、空氣の腐敗等の事なからん樣深く氣をつくべし、睡眠足らずば神經を弱くし、從つて身躰の衰弱を來す、食物よからねば是亦身躰を害す、衣服の適せぬ事は手足を寒氣に晒す故よからず、空氣の腐敗亦身躰の爲めにならぬは明かなり、是等は皆風邪の遠因となるものなり、一度カタルに罹る時は全治する事難し、故に其後に罹るも直ちに再發し、發する毎に病勢強くなるものなり、少しく風邪に即ち風邪に罹る毎にます〳〵犯され易くなる故未だ甚しく衰へざるに先きだち、治療を加へ豫防する事肝要なり。

近　因

風邪の近因を防がんとならば先づ第一に遠因を防ぐは大ひなる功あり、而しながら近因もまた輕忽に看過す可からず、何となれば平常は最も强壯に見ゆる人すら不意に風邪に犯され、鼻口カタル、咽喉カタル或は氣管支カタル、甚しきは肺病を引起こす事あればなり、是即ち空氣の寒冷なるに感じ、夫れより起る所のものなれど、不健康のガスを吸ひ込み、亦硫黄の烟を吸ひ、亦は空氣の流通あしき室に居る抔皆風邪の原因なり、亦手足の濕ふたる時寒氣に當る事、手足を冷やす事、發汗を急に止むる事、身躰の一部分を寒氣に晒らす事等皆風邪の原因なり、風邪を招くの理由につき、種々の說明ある可けれど畧して云はず、只一つを述べんに、身躰の冷ゆる事甚だしければ咽喉或は氣管の上皮衰弱す、此機に乘して空中の微虫(顯微鏡ならでは見えず)上皮を犯し、直ちにカタル病を起すが一度此微虫鼻口に寄生する時は次で咽喉に移り、亦氣管支に下る、順次に深く入りて害をなす、氣管の病より肺病を招くも畢竟此理に因るならん。

豫防法

大人も尙小兒と同じく豫防の方法を講ぜざる可からず、されど小兒は最も看護を要するもの故其豫防法につきて少しく述べん、小兒を戶外に出さんとならば、風なく、天晴れ、日光溫かなる頃に於てすべし、雨ふる日、風ふく朝抔必らず戶外

に出す可からず、庭前に小兒の遊戯場を設けなば寒風、沙塵、等を防ぎ得る所に於てすべし、小兒の居室、暖かにして空氣の流通をよからしむ可し、而し暖かに過ぎるは不可なり、そは戸外に出づる時氣候の變化の甚しき爲め風邪に犯さるればなり、夜に至り、入寢せしめば寒からぬ程に夜具を用ゆべし、決して發汗する程多く夜具を用ゆ可からず、餘り暖かなれば苦しき故小兒は手足もて夜具を拂ひ去り、身躰頓みに冷ゆるを以て風邪に罹る、身躰の全部を同じ温度に保つ事肝要なり、斯く豫防し尚風邪に罹らば充分に治療法を施こせ。

治療法

風邪の烈からぬもの、亦は容易く醫師を招き能ざるものゝ爲めに一ッの治療法を述ん、若風邪に罹りしと知ば直ちに床に就き、室内を暖かになし、華氏の寒暖計七十度位の温度となすべし、鐵瓶の如ものを火鉢にのせ、常に湯を沸騰せしめ置べし、病者の夜具は多に過るはあしゝ、少しく發汗する程になすべし、食物は消化し易して身躰を温かならしむるもの可なり、斯して三十六時間若くは二日も經なば治すべし、若し烈き風邪ならば直ちに醫師の診察を求め治療を施すべし。

文學

池袋清風大人批（案山子の屋第三社中）

若菜

、野となりし妹が垣根の初若菜（なりける）もゆるもあはれしがのふるさと（もえ出る春ぞ）

評。古郷の心ふたつありて、上下一せず、上の古郷はわれ一生涯の内の事、下半句は千年前の大なる古郷なり。

殘雪

、、夕日かげ霞み渡れる（に消えて）春日野のもゆる若菜に春雨ぞふる（か上）

評。春雨は時雨とは異なり、日の照りたる時はふらぬなるべし。

水鳥

、吉野山（かつらきの）高根の雪も打けぶり（かすみ）のどかにかすむ朝日影哉（にほふ春の日のかげ）

待雪

○み雪ふる佐野のわたりのあけ方のくもれる月に千鳥なく也

、吹風のこゝろにまかす（のまゝの）雪あらば柴の庵に今日誘ひてよ

評。まかすにては形容詞に非ず、動詞也、まかするにて動詞様の形容詞となるなり、柴の庵にさいひては家の内に雪を吹こめさ言ふが如き心地す。

鷹狩

津田次郎

○あら鷹をならしの岡に天つ日の影かきくらしあは雪ぞふる

年の始の感

室鳩巣

さても多くの年月を經て世のうつりかはる有樣を、考ふるに、盛衰榮枯、互に行かふをば、夢とやいはん、現とやいはん、誠に富貴は浮べる雲の如く、禍福は糾へる繩の如しといへるに、何かたがふ事あるべき、中に唯吾が聖人の立て給へる、三綱五常の道のみ、天地と並び傳へ、古今の隔てなく、是ばかりは、かはる事あるべからず、人として仰ぎ崇ぶべきは此道ぞかし、然れども、儒教世に行はれざりしより、人々義理に疎く、利欲にさとくなる程に、五常の道すたれて、風俗日に下りゆくこそなげかはしけれ、もとより賤しき身にて、一代の風教を維持せんとするとも、わが力及ぶべきにあらねば、ひとへに蚍蜉の樹を撼かし、精衛が海を塡むるに似たるべし、さはいへど、世を憂ひ民を新にするも、吾儒分内の事なれば、是を度外に置くべきにもあらず、いかなれば、世に老師宿儒と稱する人の、好みて異説を肆にし、又は他道を雜へて、仁義五常の沙汰をばよそにするぞ、たゞ務めて新奇を競ひて、俗耳を悅ばしめ、時好に投ずるなるべし、いと口惜き事なり、古人のいはゆる阿世曲學とは、是樣をいふなるべし、よし人はさもあらばあれ、縱ひ風俗は昔にあらずなるとも「わが身ひとつはもとの如く」仁義の道を守りつゝ、前修の模範を失はじと思ふこそ、責て儒とありしるしともいふべけれ。

笑草

東京見物

雲の下人

都に住みなれたる人は萬づのもの聞きなれ、見なれて、格別珍らしとも思はねど、田舍の片隅に住み、狐狸と伍をなし、犬猫を友とし、生來家の立並ぶ所にも出でぬ者には東の都とし云へばいとうるはしく、見る物眼を驚かし、聞くもの耳あたらしからんと思ふめり、あはれ人間と生れ來し身の、いかで一度東の都を見物せばやと、幼き頃より思ひ立ち、年長るまで汗水を流して働き、朝は星の光を戴きて出で、終日耕作に餘念なく、夕は暗き道をたどりつ、わが屋の燈を心あてに家路を急ぎ、眠むる時とてさほど多からぬまで勞働し、僅かに得たる金を懷になし、こたびこそ幾十年の間遙かに打ちながめつる都の空を眞下より仰ぎ見んと、はる〲立出づる人も多かりとぞ。

こゝはまだ武藏の國境ひを出でぬある山里に一人の翁ありけり、先祖より讓り受けたる財寶とては一棟の古きわら屋と、少しばかりの田地のみ、田舍にてはさほど貧しといふにはあらねどまた餘裕のあるにもあらず、若かゝりける時より、三年の後には、五年を過ぎなばと、東京見物を樂しみに日々家業を營みけるとなん、此翁は天保何年とかの生れと聞けば、もはや年老りたり、先つ頃、漸く故鄕を立出で、多年の望を達する此時にありて打よろこび、若き人は一日餘りにて到着すべき道なれど、老の歩みのはかどらねば家を出でゝ三日目といふに夕方東京につきぬ、道の都合よからぬにや、滊車に乘る便りもなくいたく打つかれしとぞ、とかくして其夜は宿りを求め、翌日は朝まだきに立出で、何處ともなく行くほどにます〲人の賑ひ、物のさはぎ、甚しくなり、神田の通りに出たる時は曲れる腰を伸し、暫し佇みて、此處彼處とながめ居たり。此翁年こそとりたれ、始めて都に出でければ何處は何町なるやも、知らず、東西も分たざりき、あはてふためきしも理りなり。

東京と云へば日本第一の都にて、支那天竺にもなき所と聞く、そが內に見物すべき所も多かんめり、殊に九段となん云へる所に大ひなる金の鳥居あり、その奥に祠あり、其結搆云はんかたなしと鄕里にある時傳へ聞たれば此翁今思ひ出で、先づ始めに九段とやらんの祠に詣でばやと道を急ぎぬ、坂の上にて打眺つ餘念もなき折に一發の大砲、大地を動かして轟きぬ、翁大ひに驚きて傍人に問ば正午を報ずる砲聲なりと答ぬ、はや正午となりけるにや、祠に詣で、後食事せんとて、赤杖を曳きて徐々歩み出でぬ、坂上にて見止し金鳥居を目あてに馬塲の間の道を行ぬ、鳥居を仰ぎ見て亦驚きしが暫くにして祠の前に至り、懷の奥の方より財布を取出し、賽錢に捧げんとて小錢二三文握みぬ、折から百雷の一時に落たる如く音喧く傍の道を過ぐるものあり、こはと見る內に過行く轍輛の黑塗馬車、うるはしき哉と嘆稱しつゝ詣で、立出でぬ、鳥居の所に至る頃財布はと見ば右の手に小錢二三文殘せるのみ、サテは財布を賽錢箱に投せしかと老の涙を流して泣きしとぞ、あわれなる老人も世にはあるもの哉、其後の事はよくも知らず。

世には油斷して此翁の如き失敗を招く人も多かり、人みな心せよ。

寄書

歳晩述懐（旅中雜記一節）（其下）

斗牛庵主人

南無阿彌陀佛と一遍の念佛に罪亡ぶるならば三昧道場に一夜の參籠もなに厭はじを。エホバの前に額づきて一度の祈願に罪消ゆるあらばボーロの御寺に一年の默禱もなど嫌ふべき。懺悔録一千枚若し罪障消滅を望むべくんばルーソーの文字なきも是を口外するの勇豈に彼に劣らんや。さはれ我は恐る、繩に頼る者は繩切れて落ち、木に縁るものは木倒れて躓づく。それも是れもよしなし、我は寧ろ念佛せず祈禱せず懺悔せず、唯善を作り德を積んで以て罪を贖はむ。それも顧みれば又惑ふ、善何物ぞ、德何物ぞ、若し善なり德ありと認むるものあらば是を行ふに難からぬも、幾多の罪に良心を汚し妄執の雲に心眼を包むの我れ迷ふが常なれば善と爲すも德と爲すも果して善なるや德なるやを知らず。我れ善と考ふるもの若し不善たらば、我れ德と信ずるもの若し不德たらば、作るも積むも罪障を增すのみにして何れの日か安心立命して我れ幸福ありと云ふを得んや。

人の世に出づるや玉を磨くが如し。初め粗璞にして瑕瑾なきが如けれど、玉愈々光れば瑕瑾益々多し。若し一瑕瑾を磨かんと欲して千瑳漸くに是を消さば忽ち新たに一瑕瑾の生ずるを見ん。百回千回琢磨して無瑕圓滿たるを願ふも、瑕瑾盡滅の時は玉即ち盡滅の時なり。人に無念無想小兒の如くあれと云ふは玉の粗璞なるを願ふの言にして、エデンの春は過ぎ去りし哀苦の鄕に生れ來て、二十四時間絶間なく慘き浮世の風に觸れ其まゝ無念無想なれと望むもなどか望まれべき。瑕瑾あるは玉の常なり、罪あるは人の數なり。さるに瑕瑾なからんと欲し罪なからんと願ふは唯苦を增すのみにして、世に苦境を脱せんとて却て益々苦境に踏迷ふもの皆是れ罪障消滅の望まれべきを妄信する煩惱の仕業なり。さりとて我も人なれば罪あるは常なりとて滿足するとあらねど、中夜眠覺め床上に過ぎにし罪を繰返して震へをのゝき喪亡自失死海に魂魄を漂すも罪消ふるにあらずんば何かせむ。釋迦も基督も……然り我は斷言せむ彼等なほ幾多の罪を作りしと。唯彼等に尊ぶ處は此世に住める幾億萬の罪人と諸共に滿腔の血と涙を張らして罪を贖はんとせし良心ぞ。我も人なれば此良心なきにあらねど唯血と涙の量少きこそ中々に悲しき種子なれ。罪ありと

云ふもよし、我元より罪あればなり。不德なりと云ふもよし我元より德なければなり。唯我が恐るゝ處は血と涙の少ふして空しく寂寞たる風雨の中に古塚を守るの主と爲らん事を。我れ本來無一物、識乏しく智淺ければ外面の是非利害に眩まさるゝの眼を有たざれば、基督敎者に懷疑ありと退けらるゝも禪學者流に煩惱なりと嘲けらるゝも、是も可しあれも可し。我はたゞ我が良心の指す處を踏へて懷疑の爲に血を吐き煩惱の爲に涙を灑がむ。我未だ安心立命せず。否現在のみならんや、十年二十年秋草に埋まるの時來るも猶ほ安心立命を望まず。安心立命は此世界に得られざるものと知る、不完全なる人間界は萬年萬々年の後までもなほ不完全なりと、信じて安心立命せむ、さらば何を苦んで嘆き何を怨んで叫ばんや又何を喜んで笑ひ何を樂んで滿足せんや。唯全じ不完全なる世に生れし全じ不完全ある人間なれば此人間こそなつかしくあれ可愛き者あれ、離れんとして、離れられぬ此人間界なれば人間の爲に椽の下の力持をするも暖簾の腕押をするもなに厭はじ能く忍ばむ。

さりとては又むづかしき行路難、柱に凭れて晏坐するも、むら〳〵と湧きたつ感慨と共に疊は浩蕩たる大波と變じて水烟を立て、壁は萬仭の峭壁と爲つて白雲を飛し、蒸々たる烟霧は四隅より起り我を包んで冥々莫々、峰又峯、波また波。忽ちにして迅雷疾風、倏然として鯨濤廻瀾、アルプスのグレイを笑ひし我も、アークチックのキヤポットを嘲りし我も、口惜し、妄想の山海に消魂し神驚き胸踊りて、八年の夢を砂濱の足印に破られしクルーソーならねども此朦たる、烟霧を開くの光明を望んで、嗚呼！絶叫せんとするも胸壁破るゝ如くして猶ほ言ふ能はず。"I will never leave thee, nor forsake thee."と誓ひし言に僞なくば此暗冥より我を濟ふて白光淨土に導かんものを。賴まじな、我と全じ不完全なる人間が妄想を凝して作りし此神を。我は我信ずる處に依り我良心を吐出して億萬の同胞と共に此暗冥を破らん。迅雷疾風も何かあらん、鯨濤廻瀾も何かあらん。嗚呼我バイロンならざるも。

I have thought
Too long and darkly, till my brain became
In its own eddy boiling and oérwrought,
A whirling gulf of phantasy and flame.

燈前孤坐過去を思ひ未來を觀すれば、感慨胸にせまりて泣くも笑ふも悔るも怒るも唯刹那の情、ギヨーテにもあれセキスピヤにもあれ一千言一萬言を陳ねて此混々として噴しる狂念

妄想を描出せんや。嗚呼止みなん止みなん、幼き我文字を繰返し繰返すも罪障深く道念低く心眼盲に心耳聾なれば言ふ處果して眞？偽？是？非？ 我是を斷ずるの勇を持たざるあり。思へば我日月もなく行路もなき茫々たる劫原を辿る事心細さの限りなれど。安し！ 我胸中に一點の星あれば、よし是を吐て黒雲を排かん。

Still it whisperd promis'd pleasure,
And bode the lovely scenes at distance hail!

是も妄想あり、千万度繰返すも皆妄想なり。思はざりせば此業火を燃さゞりしものを。今更の樣に慌忙する都人の妄念を笑ひし我も笑はれし一人なりしぞ是非なけれ。

今は業火もやゝ靜まりて思返せば、可笑し！ 妄想に心を奪はれて食事も忘れ風呂にも入らざりき。此家の下婢呆然として我を見詰めしが、お風呂を召して今年の垢をお落し遊ばせと笑掛て不思議さふに見詰めければ、我も可笑しくなりて、ドレ一ト風呂浴びんか今年の垢が落ちるなれば、明日は輕薄なる都人を眞似て靜けき鄙に初春を壽かん。思へば繰返せし狂念我ながらをろかしく。古人に句あり曰く、一しきり啼て靜けし除夜の鷄。（寅の年大晦日記）。

時事

○板垣翁

翁をして一と度び彼の大會に臨ましめ、誠眞渥愛の情を以て滿腔の意見を吐霧せしめ、たとへば教へ子に向ふて教師が說得する如く、演說せしめたらば何如に。吾人は、此事あらざるに果然分立の果し狀先づ飛來せるを惜しむ。

○左きゝ

左の手が右の手ほど働らかぬは何故ありや、もし之を教練して右の手と同樣にすれば、國人を倍したると同じき大發明なり、左れど斯る改革は害なきや否やとの一問、貴族院議員加藤弘之氏近頃の研究なり。

○夫婦の契約

世は法律の世とならんとす、夫婦の愛も尙ほ權利義務を以て割出されんとす、岩手縣西和賀郡湯川村の佐々木銀平は、兵に徵され此度び仙臺師團へ入るに付き、親類縁者一同を呼び集へ、目前に於て嫁トクより左の契約書を取りぬ、

契約證

第一條　夫銀平殿御出立の日より計算し滿十ヶ月以上にして出產ある時は如何樣の裁判被致候共一言申間敷事、

第二條　夫銀平殿不在中は他人をして美男子と認むるものある時は其人に向ひ一言の對話致間敷事、

第三條　大小便に出る時は決して單身にて出でず姑を同道すること、

第四條　溫泉場の事なれば若し浴客の内に年齡相當の男ありたる時は一寸も我家の臺處より外に出ざること、

第五條　夫銀平殿の歸村迄は總て家内を除くの外何人に係らず男子と對話申間敷事、

右の通堅く相守可申契約書依而如件

舅銀介。　姑さく。　夫佐々木銀平殿。　妻とく。

○本年の女の頭、衣裳

吾人は斯る事に不案内ゆへ、謹しんで「おづまぶり」の言ふ所ろを聞けば、近頃ろ左の如し、

一時非常の流行を極めたる束髮も漸く退隱の赴あれど上流社會の夫人令孃または女學生の間には「あげまき」「さげまき」「まがれいと」等倘行はれつゝあるなり一般の婦人はヤハリ丸髷島田銀杏がへしにて根を高く結びたるもの多きが如く飾りは極めて淡泊にして高尙ある風近來の流行なり。櫛は政子形かたそぎ一般の流行木地はばらふ鼈甲に時候の草花又はアッサリとしたる意匠書などの描金もの勢力あり。簪は金あし蛙股四分一細彫など極澁い所珊瑚珠ものはメッキゝ廢れたり娘孃には時候の造草金足束髮ざし洋風花形にトヽハス入などチョット洒落た方なり。根掛は金すだれ四分珠の珊瑚は中等以上の婦人向廣く行るゝは朱珠七寶編てから

○下ばき

婦人の股引に付きては每度述ぶる所ろありき、此頃大阪の有志者は特更に新工夫を爲し、一種の女股引を仕立たり。

○成瀬仁造君

君は基督教主義獨立女學校創立者の卒先家と云ふべし、大坂に梅花女學校を起し、新潟に英和女學校を起し、共に傳道會社の補助を斥けて困難の中に、維持擴張し、遂に今日の情況に至らしめたり。今ま女子敎育及慈善事業視察の爲め、米國に渡行す。希はくは途次淸健にして早く歸朝し、斯道の爲に大に盡力せられんとを。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

○議塲を弔ふ

汝が壇上に未だ雄辨の焔を發たず、汝が塲外に未だ光彩万丈の大英斷を現はさず、而して汝が渾身先づ燒け、全土烏有に歸す。人の冷やかなるを嘲けりしか、抑そも平ならずして自から憤怒せしか。要するに汝の滅盡せるは祝事にあらず。

○唖議員

兆民居士は言はく、議院内に於て辨ぜざる唖議員は、如何なる才力ありとも議院の役に立たずと。居士が自由新聞紙上の評は能く自家の自嘲を解くに足るか。都新聞の論よし。

○女書記

主計役、もしくは書役には女こそ宜けれ。明治女學校は五ケ月卒業の學科を以て、かゝる女職員を養成せんとせらる。其卒業生に對しては、早くも二三の新聞社及び會社より雇ひ入の豫約ありと云ふ。志ある女性は卒先して其藝を學ぶべし。

○インフルエンザ

再たび流行し、都下幾十万の人を病ましむ。之が爲めに、議塲もさびし、學校もさびし、新聞誌面もさびし、流行感冒の侵す所ろ、熱の高きと共に万景冷寂たり。吾社中の人續々病み、筆力自から不足す、讀者希はくは暫らく恕せよ。

問答

可愛子

●和歌を習ふ手續に付き　前號に答を出せしが少しく誤ありとて、京都の池袋清風大人より、左の如く申越されたり。（上略）東京社中と同志社女社中の外は一切一首一錢の謝儀なれば二十四首ならば二十四錢三十首ならば三十錢にて候又結社出詠ならば毎週一回出詠せしむるも個人出詠ならば月に一回三十首送詠して宜し（中略）結社會詠（五六名以上）でも謝儀は同じく一首一錢なり。

●奥州一女生　基督氏とパンを指しペテロに謂さく、汝ち此等のものに優りて余を愛する乎と。ペテロ然りわが汝を愛するとは汝が知り玉ふ所ろなりと言へるにより、左らば群羊を飼ふべしと答へぬ。人を導びくものは愛を第一とす、教へ子の爲に生命を棄て得ろの教師こそ教師の第一なるものなれと存じ候。女教師にては、ハンナモア、メレーライオン、の如き、特に貴んずべしと考へ候（編者）。

●問。高等中學位の程度の學課を教ゆる私立學校で、政黨抔に關係しないものがありますか。（老措夫）

答。京都の同志社學院、東京芝白金の明治學院、麻布鳥居坂の東洋英和學校、青山南町の東京英和學校などでせう、外にもありませうが、此等の學校より劣ります。

問。やさしき女子の習字帖は、如何のものがよろしく候や。（後藤小藤）

答。女のお習になるには、階書では、支那人ならば、柳公權、顔眞卿、日本人ならば、長三洲、菱湖、菱潭、などがよろしく、草書では、支那人ならば、王羲之、日本人ならば、長三洲、菱湖、千蔭、菱潭などがよろしいと思ひます。

問。當時最もよく、且つ熟語の多くある、英和對譯の字書は、何でありませうか。（服部富嘉）

答。多くありますが、其中、大では英和字彙、小では英和雙解字典などが宜しからうと存じます。

問。支那で四大奇書といふのは、何でありますか。

答。三國志、水滸傳、西遊記、金瓶梅です。

問。邦語の書籍で、基督教神學をしらべるには、何がよろしう御座いますか。

答。神學提綱、神の顯現、眞理一斑、基督教防衛論などでせう。

新誌

可愛子

●時事新報　は大功名を謀るべしと題し、政治家の胸中に小功名の私情を脱せざる限りは、眞實得意の日は遂に來らずして、遠大の大功名は、到底望むべからざるものと覺悟せざるを得ず、昔し豐公秀吉が、天下を掌握して、更に明韓をも一併せんとするの大志を抱くに當りて、先づ志を屈して、德川家康を招き、肝膽を披て、之と事を共にしたるは、大功名の爲めに、私情を棄てたるものなり云々と說き、先輩の政治家に向て、自ら省みて前圖を改め、一身の爲め、國家の爲め、最後の大功名を謀るの覺悟肝要なるべしと警告せり。

●中正日報　は誰か議會が豫算案を議するに當り官制に立ち入るを違憲と云ふかと題し、所謂軟派の說をば、簡端に、有力に、辯じ去り、要する所、第一議會が豫算案を討議するに、憲法上の大憲に關する既定の歲出を討議するは、我憲法の命ずる所にして、決して大憲を侵犯したるものにあらず、第二法律を先發せざるも、削減の決議に、政府同意せば、議會に於ては、法律の有効無効を、論ずるに及ばずと結論するものあり云々といへり、論長からずと雖も、盡せり。

●國民新聞　は舌猶存するや否やと題し、地租輕減を絕叫したる舌猶存するや否や、三條例改正を絕叫したる舌猶存するや否や、豫算問題方に闌に、三條例亦議場の問題たらんとするの今日に於て、何すれぞ寂々たるや、默々たるや、と大叫し、人民たるものは常に巨眼を張りて議會內の形勢に注目し、議會內と議會外との調子を合せ、議會外に發揮し蓄積せる勢力を議會內に輸送するを怠るべからず、是れ實に議會に向て其食料を送る所以なり、食料を送らずして議會を飢やし、而して議會の元氣あらんを望む、豈亦難からずやと烈告せり。

通信

可愛子編

●三重縣通信○入學試驗　本月十四十五兩日三重縣廳に於て東京高等女子師範學校入學試驗擧行せらる志願者二名。

○三重婦人會　は本月十五日三重女學校に於て總會を開く。

○英語會女子部　は本月十六日より開會せり。

○孝女の碑　安藝郡連部村の孝女とせ子の碑は石材も整ひしに付き近日公園に建てらるゝ由。

●宮城縣通信○宮城女學校　にては過般文學會の設けありしが漸次其進步を見るに至り今は既に其手にてなれる雜誌も四號を重ぬるに至れりといふ。

○禁酒會　は同地方青年有志の發起にて設立ありしが會員既に八十餘名に上れりとぞ。

●九州通信○長崎活水女學校　の校長イ、ラッセル女史は一昨年一時歸米せしが本日初旬ギール、シーヅ、ラッキーの三女史を伴ひ再び渡來せりギール氏は活水女學校神學部にシーヅ氏は福岡英和女學校にラッキー氏は鹿兒嶋女學校に從事する由ラッセル氏は九州に一の女大學を設置せんとの目錄見よて目下資金募集等の準備最中なり。

○鹿兒嶋女學校　は同縣の有志家竹崎一次氏等の發起創設に係るものなるが未だ開校の運に至らざりしも追々準備も整ひたれば開校の日を見るも近きにあるべし同校に雇聘せらるべきフォルブス、ラッキー二女史も目下長崎滯留中なれども現狀到來次第直に鹿兒島に赴く由なり。

●北海道通信○札幌婦人慈善會　にては毎月一回會員相集り各自の好みに從ひ餘り高價ならざる品物を製造し本年義捐會員募集の爲め物品賣捌會開設の時之を其賣品に充てらるゝ由。

●米國通信○杉江たつ女　は撰科生として ウエレスレー女子大學に入校せられしが今度再び普通科を修めんとて當時は其近傍なる" Home School "にて其準備をなし居れり。

女報

可愛子編

●兩陛下の御風氣　聖上皇后兩陛下は、本月初旬より、御風氣に罹らせ給ひし處今は兩陛下とも、御快方に趣かれしとぞ承はる。

●インフルエンザ宮城に入る　インフルエンザは、今や九重雲深き處にまで入れり、目下宮內省にて女官の病めるもの上下合せて三十五名、青山御所には、病む者四五名、尙ほ宮內省にも官吏數十名病んで引籠り中なりといふ。

●女學校とインフルエンザ　インフルエンザ流行の爲め、青山南町の東京英和女學校は休校するに至りぬ。

●下婢の給金インフルインザの爲めに騰貴す　インフルエンザの影響は、意外なる邊まで及べり、昨今同病の流行甚しきより、下婢俄かに沸底し、雇人請宿にては一人の下婢を互に引張り合ふ位なり、爲めに其給金は二割方も高くなりぬ。

●島田夫人　十九日、委員長島田三郎氏の夫人政子は、國會の傍聽に赴かれたり。

●フェリス女學校の失火　横濱山手居留地フェリス女學校のコック部屋より、去る十九日午前九時十分出火、一棟燒失したりといふ。

●横濱英和女學校　にては、主管プラオン夫人支那に赴かれし以來、永く米國に在りて教育の任に當り、學術經驗共に豐かなるシー、ジー、カンパス總其後を嗣がれ、大に校則を改正し、規模を擴張せんと企て居りしが、此程既に校舍新築に取り掛れり、落成は今夏中の見込なりとぞ。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

●婦女の海外旅行券及び其返納　昨年十二月中、神奈川縣廳に於て、海外旅行券を附與せし婦人の數は十八名にして、之を國々に區別すれば、米國行十八、英領加拿陀行四人、清國行二人、布哇國行一人、蘭領スマトラ行一人なり、其中旅券返納の數は七人にして、內譯布哇より二人、米國より二人、英領香港より二人、淸國上海より一人なりといふ。

●京都婦人慈善會　は去る十七日午後一時より、高等女學校講堂にて初會を開きぬ、餘興には、平素補助慈惠を受くる厚志に酬ゆるの旨趣にて、盲啞院音樂教員及び生徒が、同會に出席して音曲を奏せしといふ。

●大阪梁保羅教會婦人レプタ會　同會は、教會費用の幾分を補助せん爲めに、該教會の婦人諸氏が、計畫組織せられたるものにて、該會設立後男信徒も大に此美擧を贊成し、會員の多くは該會員となり、昨年十二月々末、各自小さきレプタ箱を携へ來り、計算せしに圖らずも三圓の集金を得たりと、點滴河をなす、レプタ豈些少となさんや、まして其目的の美くしきをや。

●上州高崎教會　に於ては、本月九日婦人會を開き、前橋より、女教師セッド孃も來りて演說したりとぞ。

●名古屋英和學校　は美晋教會に屬し、今回三層の高大なる校舍を建築し、略ぼ成功を告げ、十四日より開校せりと聞く。

●名古屋淸流女學校　は美以教會に屬し、追々盛大となりしが、今回更に女子高等師範學校卒業の某女史を聘し、目下生徒募集中なり。

●金城女學校　昨年十一月、本社の「女學生」へ同盟したる、名古屋の金城女學校は、日本基督教會に屬し、今回大に校則を改正し、專ら婦人特有の眞性を發育し以て眞誠なる賢母良妻を養成するの目的にて、今ま生徒を募集中なりと。

●名古屋慈善病院　名古屋婦人慈善會が設立せし、慈善病院は、本月七日、開院式を擧行したり、同會々頭は山鹿ゆき子にして、副會頭は吉川澤子、書記は歌川豐子、會計は淸水米子、會計助手は鵜飼つた子なり、目下會員六十餘名同日の式は極めて盛なりしと。

●大津私立高等女學校　滋賀縣大津なる同校は、目下二百二十七名の生徒あり、本年四月に至りて創立後二學年を終るべし、近頃英語科を隨意となし、裁縫に力を用ひしめ家政科は之を實踐せしむ、別に豫科生ありて、其生徒は大津高等小學の囑托により、同小學一二兩年生を教育せりとぞ。

●近江婦人慈善會　は去八日其發會式を、大津町商法講義所に於て擧行せりといふ。

●彥根私立淡海女學校　滋賀縣近江國なる同校は、今ま生徒八十餘名あり、明治十九年の創立にして、昨年初めて九名の卒業生を出せり、校內に茶席を設けて點茶を敎ゆ、英語教師は同志社女學校の卒業生土田常孃なり。

●裁縫教授所始業式　滋賀縣犬上郡多賀村、岸邊八重女の設立にかゝる裁縫教授所は、去る七日開業式を擧行し、村長、學校長、地方名望家、生徒等七十餘名相會し、午前十時開會し、來賓の演說祝詞、教主の答辭ありて、いと盛なりし由。

●岡山婦人會　に此程岡山市芳春館に於て開會す、來會者七十餘名、岡山縣尋常師範學校教頭大村忠二郎、同校訓導進藤貞範二氏の演說などありて、中々盛なりしといふ。

●岡山婦人英學舍　は私立にして、現今女教師二名、生徒は四十餘名ありといふ。

●英和女學校　山口縣道場門前裏手元靜習學館寄宿の跡へ、設立したる英和女學校は、去る十二日、入學試驗を擧行し、十五日に開校式を擧行せし由、開校式には、總員の頌歌、服部校長の祈禱、及び歡迎演說、及び學校設置の主旨、目的の演說、エーレス教師の英語演說、英語頌歌、英文朗讀、エーレス夫人の獨吟、獨彈、ペツキ博士の演說、祝詞、頌歌、祈禱ありて、尤も盛なりしと、昨今生徒二十名に近し、增聘教師、米人ガーピン氏も來月二三日頃は赴き着する筈なりとぞ。

●北海道春採村基督教講義所　春採村は釧路を去ると東二十丁餘、高原に在る一村落にして、戶數凡そ百に近く、住民は皆アイヌ人なり、該講義所は、英和女學校々長ペーン女史の私設にかゝる、昨年八月既に落成し、爾後日曜日每に說教あり、

●西洋人の無禮　此頃橫濱に於て、汽車の車掌の話なりといふを聞くに、西洋人にして、日本婦人の少しく美貌の者に對しては、車中にて、接吻を試みんとするものを屢々見附けたりと云々と、若し果して眞實ならば、吾人は其無禮を責めずんばあらず、吾人が正義の筆鋒は、何人と雖も用捨なし。

●婦人の廢娼建議　岡山縣岡山市中村靜子外六十名より、目下開會中なる、岡山縣會に向け、廢娼の建議書を呈出せり、縣會にては右の建議を審査する爲め、議員の中より、委員五名を撰擧したりといふ。

●又廢娼の建議　仙臺市の有志靑年よりして、一月十五日廢娼建議を提出せり。

●又　去十七日、橫濱基督教靑年會は、神奈川縣下の有志百五十名の贊成調印ある、公娼全廢請願書を、議員植木枝盛氏の紹介を以て、衆議院に呈出したり。

●退去者橫濱に競爭す　保安條例にて退去されたる壯士輩は、橫濱にて、娼妓存廢の事に付き、組を分ちて互に競爭を始めたりとか。

●密賣淫の拘引　田中警視總監、訓令して密賣淫を驅る、每日拘引さるゝ者數名。

週報

●宮庭　十九日熾仁親王殿下參謀總長の御資格を以て參內天皇陛下に御對顏の上暫く御對話あらせらる。

●政治　十三日內國會議●同日大江卓竹內綱小林雄七郞三氏立憲自由黨を脫し長谷川泰氏は彌生俱樂部を脫す●十四日立憲自由黨の常議員會開く此日此會に於て末廣重恭井上角五郞二氏を自由黨より除名するとに決す其理由は黨議に反するが故なりと●十六日自由黨員の惣集會あり●同日內閣會議あり●十七日國民新聞解停●十八日國民自由黨の演說會あり●十九日板垣伯立憲自由黨を脫す●二十日午前〇三十分貴衆兩議院燒失す

●經濟　十二日神奈川町名古屋樓に於て全國蠶絲家會議を開く

●教育　高等中學に於ては去る十九日より向ふ一週間臨時休業インフルエンザ流行の爲めに●帝國大學に於て今度佛文學科を新設す●十六日學習院教授嘉納治五郞氏歐洲より歸朝す

●叢報　十三日英人アーノルド氏歸國の途に上る

品名	廿一日
白米（一円ニ付）	
一等米	一〇〇（斗升合）
二等米	一〇四
三等米	一〇六
四等米	一一三
五等米	一一九
正米（一円ニ付）	
越中米	一五〇（斗升合）
越後米	一四九
尾張米	一四六
美濃米	一四八
忍領米	一四五
雜穀（一円ニ付）	
本貫大麥	二四〇（斗升合）
上州小麥	一六三
梅澤大豆	二一三
青柳大豆	二〇〇
吟小豆	一五五
白胡麻	一二〇
黒胡麻	一五五
鹽（一円ニ付）	
赤穗	二四七
大撫	二六〇
本齋	四〇二
新齋	四三七
乾海苔（一百枚）	
極上々	一円、一〇
上々	八五
中上	四〇
上總極上	八〇
洲崎極上々	九〇
大森極上々	八五
同上々	七〇
深川極上々	九〇
同上々	七〇
潮田極上々	六五
味噌（一円ニ付）	
地製上等白	六、八〇〇（貫目）
同赤	六、八〇〇
同上赤	六、二〇〇
同極上	五、〇〇〇
田舍流山㊤	六、四〇〇
同麥極上	五、三〇〇
同並	七、五〇〇
鰹節（十貫目ニ付）	
薩摩大上	一六、〇〇円
伊豆上	一七、〇〇
遠州上	一六、〇〇
房總上	一四、〇〇
土佐大上	一〇、〇〇
花色絹糸好	
生七十匁付	四、〇〇円
同八十匁付	四、四五
同九十匁付	四、八五
同百匁付	五、三五
同小節絹	
生八十匁	三、二〇円
同本秩父絹	
生百四十匁	四、八〇円
濱縮緬	
大巾上馴	五、〇〇円
小巾百廿目上々	五、四〇
同下	五、〇〇
六丈絹猩々紅	
五十匁立並	五、六〇円
同別仕入	六、一〇
白木綿（一反ニ付）	
玉鶴	三五五（反分厘）
綾鶴	三八五
日ノ出鶴	四一五
白梅	三九〇
間銘	三九〇
絹糸（一円ニ付）	
水練花色上々	二四五（匁分）
色物上々	二三〇
赤白同	二三五
延糸同	二〇五
芥子絲上々	二四五
薄色同	二三〇
色物太練上	二四〇
羽二重糸上々	二三〇
毛糸（一百斤ニ付）	
鶴判上	一〇〇、〇〇円
同染分上	一〇〇、〇〇
同中細	一一五、〇〇
同極細	一二五、〇〇
靴下用極上	一三〇、〇〇
眞綿（九貫目ニ付）	
上金	一三五、〇〇円
並金	一一八、〇〇
無銘	一一〇、〇〇
繰綿（一円ニ付）	
新坂上銘	七八五（目）
同京丹大入	八〇五
同坂丹大入	八一五
同三州上名	八〇五
同尾州文庫入	八七五
水油（一樽ニ付）	
地水	八、六〇
胡麻油	九、五〇
荏油	一〇、二〇
桐油	六、七〇
坂水	九、九〇
石油（一箱ニ付）	
チヤスター	一、六八円
ホーキ	一、七二
アポース	一、六七
ロシヤ	一、六四

● 基督教新聞（發行所）

◎預言之發達 定價六十錢
◎讃入讃美歌全 二十五錢
◎維馬讃美全 十五錢
◎聖經年表全 二十五錢
◎神學提綱全 五十錢
◎基督教ノ基本全 七十錢
◎基督一代記全 五十錢
◎福音初歩全 二十五錢
◎聖書辭典全 壹圓廿五錢
◎聖書語類全 壹圓
◎教會歴史全 壹圓三十錢
◎基督信者要性全 十八錢
◎歴史上ノ基督全 二十五錢
◎ポーロ一代記全 十八錢
◎學生之大會全 二十五錢

◎鳥と獸のはなし 定價四十錢
◎アブラハム倫古龍全 二十五錢
◎淸教徒紀事全 二十錢
◎立志之礎全 三十錢
◎政教新論全 二十五錢
◎神之顯現全 二十五錢
◎基督教及佛教全 二十錢
◎基督教及哲學全 廿五錢
◎眞理一斑全 三十錢
◎路撒傳全 五十錢
◎基督教及國家全 八錢
◎現今唯物論全 十二錢
◎人類之時代及起原全 十二錢
◎不可思議論全 十二錢
◎天啓理學合一論全 十二錢

新橋出雲町 ● 警醒社 ● 新橋出雲町

● 六合雜誌（發行所）

定價		
一冊	六錢	郵稅五厘
十二冊	五拾八錢	郵稅五厘（但府内無郵稅）
半年分	壹圓四拾三錢	府外は壹圓五拾六錢
一年分	貳圓六拾錢	府外は貳圓八拾六錢（同前）

東京市麴町區下六番町六番地

發行所 女學雜誌社

編輯兼發行人 巖本善治

印刷人 堀口庄三

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

男女共うつくしくある法
ひゞあかぎれしもやけを一夜に癒す法

此法を行ふには東京四谷傳馬町一丁目永田咸亨堂より發賣する貴女の水といふ藥を求め毎日湯揚に用ひ賜ふべし其効能に曰くひゞあかぎれしもやけは一夜にて治す常に之を用ゆれば肌膚をこまかにしにきびそばかすたゞれ等の患ひなし故に貴婦人方の白粉下に用ゆれば白粉惡毒の患ひなく顔手足肌を光澤しくする大妙藥代價は一瓶僅か五錢あり

子宮病を容易に癒す法

此法を行ふにもやはり永田咸亨堂より發賣の子宮神藥を用ひ賜ふべし効能に曰く子宮病より發する下腹の痛胸の痛頭痛眼暉立くらみ氣欝疳氣募り故なく悲しく涙いで物事氣にかゝり睡れず俗に疳と血の道と云る症には二三日服藥て必らず治す又白血長血月經痛或は産前産後の病に即効あり代價は二日分入只の拾錢七日分入三十錢

疝氣寸白腹痛を癒す法

此法も永田咸亨堂發賣の寛痛散を用ひ賜へば容易なり能書に曰く疝氣寸白疝癪凡て胸の痛腹の痛腰痛に即効あり亦霍亂吐瀉溜飲に用ひて神の如し代價は八錢七日分入五十錢

痔疾を根治する法

此法も永田發賣の痔の一方といふ良藥を用ゆべし出痔切痔走痔等痔疾一切に特効あり亦切創腫物梅毒の腫物毛切等には尤もよし代價は四錢なり

金を儲けた上に多くの人を益する秘法

此法を行ふには東京四谷傳馬町永田咸亨堂發賣の四方劑を取次請賣を爲すべし製藥が上等であるから澤山賣口があり立派なる手數料が收入其上良藥であるから此藥を用る人は一人として治らぬ者はありませぬそこで多くの人が喜びます

右の良藥は左の藥舖に就て御購求被下度候也

本家　東京四谷傳馬町一丁目廿七番地　永田咸亨堂大坂代理店大坂西區新町南通三丁目四十一番地河毛翼●特別販賣所東京麻布網八町壹番地ビットル本舗松田藤吉●熊本縣一手販賣熊本市朝市場東方馬場五藏●愛媛縣一手販賣愛媛縣喜多郡新谷町篠崎轍●宮城縣一手販賣仙台市八幡町文字榮太郎●鳥取島根兩縣一手販賣鳥取縣伯州境港博愛堂●奈良縣一手販賣奈良縣宇智郡南宇智村字御山北幾太郎●愛知縣一手販賣名古屋市島田町三丁目西川宇吉郎●佐渡國一手販賣新潟縣加茂郡吉井本郷林金次郎●山形縣舊庄内一手販賣山形縣飽海郡東平田村字生石生石安行●福島縣一手販賣福島縣岩瀬郡須賀川橋銑山●

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

大販賣所

廣島縣奴可郡久代村
佐渡國加茂郡高千村字北河内
東京南葛飾郡隅田村枕橋八百松亭
山形縣南村山郡上ノ山町字十日町
同縣東村山郡寺津村大字藤津
長崎市築町四十四番地
山形市十日町
栃木縣足利郡足利町
山形縣飽海郡觀音寺村字芹田
秋田縣山本郡熊代港町
三重縣伊賀國上野町小田
三重縣津市四町
三重縣鈴鹿郡井田川村
三河國豐橋町上傳馬
同國下設樂郡田口村
三重縣宇治山田町
靜岡縣敷智郡西濱名村
高知縣香美郡岸本村田町
福岡縣粕屋郡宇美村
宮崎縣宮崎町河原
山口縣玖珂郡上久原村
北海道札幌區南條西五丁目

名越精久　渡邊因衡　小山源藏　佐々木萬次郎　大石善助　渡邊重吉　市村喜兵衛　金井金太郎　池田みき　熊谷直安　森下さら　辻まき　朝熊拾松　横田庄作　田邊照山　奥野吉太郎　井口藥鋪　嶌中瀧太郎　青木輪之輔　宮谷三連　宇野茂吉　長安興喜八

明治女學校女子職業部規則

○本部は女子に職業を教授する所とす○本部に於て教授する職業は裁縫。縫箔。編物の三科とし各科の卒業を二年とす（但編物は各科生共隨意に學ばしむ）○本部は別に主計科（五ヶ月卒業）を置き簿記。算筆。用文。速記術に熟達せしめ書記主計の任に適す可き婦人を養成し新聞社。會社。銀行。商店の傭聘に應ずることを得せしむ○本部普通生の外に兼修生を置き都合に依り二科以上を兼修することを得せしむ（殊に他の學校生徒及家事を取る人の爲めに便利を謀る）○本部の授業時間は一日七時間とし内二時間を讀書算術及修身上の講話に充つ○授業料は普通生を一圓とし兼修生を其半額とす○入校を望むものは年齡學力の定限を設けずと雖も品行方正にして必ず確なる保證人を立て束修一圓を持參す可し○寄宿を望むものは本校の寄宿舍に入れ且監督を受けしむ

明治二十四年一月始業

東京麹町區下六番町六番地明治女學校内
女子職業部

女學生第九號

友のまさび
商き人死せり（天知子）紛々たる哭舉（雲峰子）婦人の利器は淚なり（川合信水）
寄の手紙（可愛子）友の手紙（ひかり）誠の手紙（如是子）當代詩人の境遇（絃）
（詩軒）東都に富士を眺めて（信水）彼等冷々（自放子）
隨びの花たば
溫情優愛（Ｙ子女史）現今女子就學の方針（鈴木育子）秋の長歌（加藤さし子）
想ひ出で（星野ゆう子）菊か見る（佐々りう子）
寄せぶみ
クリスマス（英文）……（錦織ゆき子）右和譯……（山田曲子）
玉手箱
月の名稱、ハンケキの臭氣抜き、油絵の掃除、抜けぬ指環に付て、玉子を寧さ氷にする、……考へ物三件
悲しき錦
雨月……諸曲
（附錄）
暗光野……暗光子
新年朝……雲峰子

有一册六錢。

女學雜誌社

日本未曾有

[illegible]

○裁斷形紙 壹枚十錢ヨリ壹組六十錢迄

此形紙ハ方今歐米ニ其名ヲ博スル新法式ニ由リ裁斷ス○誰デモ容易ク洋服ヲ裁チ得○從前ノ裁斷ヨリ製地ヲ減ス○格好ハ歐米ニ流行ノ新形○姿謡ノ寫眞ヲ添フ○洋服商○仕立匠○女學校○裁縫學校等ニハ不可欠要品○洋細御望ノ方ハ郵劵二錢送ルベシ

洋服地持參ニテ裁斷ノ依頼ニ應ズ

○新發明 婦人用股引紙 定價 一組 大人分拾五錢 小供分拾錢 郵税貳錢

右ハ本邦新發明ニシテ兩便自由日本婦人ニ適當衛生上不可欠要品殊ニ寒氣ノ候教場ニ於ケル女學生又婦人外出ノ節等ニハ必須物也○新年ノ御祝トシテ本月中股引形紙ハ定價ノ半價

○羅紗及洋服裏地ボタン其他一切○多少ニ係ラズ廉價ニテ販賣遞送ス羅紗見本入用ノ節ハ郵劵貳錢投スベシ

○洋服調進 新法式裁斷ト精縫ニヨリ調製ス

大阪北久太郎町三丁目

山口 朝陽館

女學雜誌新年附録の評（其二）

石橋忍月

●こわれ指環

此短篇小說はつゆ子と云へる女史の作にして、女學雜誌の新年附録として世に公にせられしものなり。

つゆ子女史の予輩に與へし書に曰く、（前畧）いさゝか當今女性の上に就て感じたるふしも侍り幾からぬ心をこめてものしたるものに候まゝ文學上の新著としてい御一顧の價もあるまじく候へども愚かなる一女子が辛ふじてかゝるものを綴り出すに至りたる其心を思召し玉ひ若し御一覽の上兎や角の御批評を給はるならば如何ばかりか嬉しからむとなめけにもかくなむかしこ、と何ぞ其言の謙にして、其志氣希望の天晴れなる、予未だつゆ子氏を知らず、然れども此こわれ指環を讀み、其必ず尋常の女流社會に超出する人ならんを信ず、予も亦た露伴を學んで明治の女界に一秀才を添たるを喜ばんと欲す。

本書の意匠は大に春のや主人の「細君」に類して、其文章及び資料は共に「細君」より單純なり（或る意味にては幼稚なり）只其主人公が關係的に圓滿の行爲を欲し、能く不幸を知りて希望を求むるの一事は「細君」と大に異なる所なり、一大希望壞れて、更に新たに別種の希望を求めて滿足せんとす、是れ本書の主眼なり人生は希望の動物なり、希望全く絶へて生を保つことあるなし、予は之を夫の近時續出せし墨染小說、一名尼小說（女主人公絶望の境に陷り薙髮して尼に終る小說を言ふ）と比較して其眼光卓出注視點の一新生面を照し來りしを喜ぶ。

末段「是非とも此指環の爲に働いて可憐なる多くの少女達の行末を守り、玉のやうな乙女たちに、私の樣な轍を踏まない樣、致したいとの望を起し云々」は女史の手紙の意と相同うして詞異なるのみ讀んで玆に至り、思はず人の感を動かす、是れ或は著者の實歷に非ざるなきか（失言多罪）酸辛數奇の裡に成長したる人、不幸多涙の日月を試みし人、深更靜坐月下に對して本篇を讀まば感懷俯仰更に盡る所なかるべし。

此他、山田美妙齋の細評は改進新聞にあり、戶川殘花氏の雅評は日本評論にあり。何れも近來の傑作秀什と云へり。

婦人方に且世渡上の學問の類は女學雜誌が宜く候

第三版

百人一首講義

上製美本　五十錢　郵稅六錢
並製美本　三十五錢　同　四錢

正月の稽古に宜し
歌留多遊びに宜し
遺物に宜し
詠歌に宜し

此百人一首講義は、歌の意味、文法、を極く分るやうに說明し、其上詠み手の畧傳と其歌を詠みたる時は何如なる場合なりしかを一々分說し、小倉山紅葉の色々を一ときわにして、千古口に暗誦したる歌の心に、大光明を發たしむ。此講義を讀みて后ちに歌を朗吟すれば、味ひ新たなり、かるた遊びにも、歌の修業にも、遣ひ物にも、正月中の讀物にも、至つて宜し。

女學雜誌社

正誤　右百人一首講義を去年中に女學雜誌新規注文前金拂込の人には無代にて呈上致候處、本年に入りて后ち誤つて同樣の廣告文掲載いたし候、但し致方無之に付前週迄に申込の分へは既に書籍配達せしさ雖ども以后は之を廢し、且つ前回誤廣告文中の「本年內」さは去二十三年內の事にてありしとを追報す。

家婢　十六七才にて温良なる下婢を雇度（月給壹圓位）

神田宮本町一番地（開化樓ヨリ右横）鈴木

看護婦生徒募集廣告

看護婦生徒十五名試驗之上募集ス志願之者ハ來三月卅一日迄ニ願書幷ニ履歷書差出スヘシ

但年齡滿廿年以上卅年以下獨身ニシテ身躰强壯ノ者ニ限ル規則書望ノ者ハ郵劵七錢送付アリタシ

檢査概目

讀書　規則書翻譯文
算術　加減乘除
作文　通常書簡ノ往復
書取

明治廿四年一月

東京慈惠醫院

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌新年附錄の評（其二）

石橋忍月

●こわれ指環

此短篇小說はつゆ子と云へる女史の作にして、女學雜誌の新年附錄として世に公にせられしものなり、つゆ子女史の予輩に與へし書に曰く、（前略）いさゝか當今女性の上に就て感じたるふしも侍り幾からぬ心をこめてものしたるものに候まゝ文學上の新著としては御一顧の價もあるまじく候へども愚かなる一女子が辛ふじてかゝるものを綴り出すに至りたる其心を思召し玉ひ若し御一覽の上兎や角の御批評を給はるならば如何ばかりか嬉しからむとなめけにもかくなむかしこ、と何ぞ其言の謙にして、其志氣希望の天晴れなる、予未だつゆ子氏を知らず、然れども此こわれ指環を讀み、其必ず尋常の女流社會に超出する人ならんを信ず、予も亦た露伴を學んで明治の女界に一秀才を添たるを喜ばんと欲す。

本書の意匠は大に春のや主人の「細君」に類して、其文章及び資料は共に「細君」より單純なり（或る意味にては幼稚なり）只其主人公が關係的に圓滿の行爲を欲し、能く不幸を知りて希望を求むるの一事は「細君」と大に異なる所なり、一大希望壞れて、更に新たに別種の希望を求めて滿足せんとす、是れ本書の主眼なり人生は希望の動物なり、希望全く絶へて生を保つことあるなし、予は之を夫の近時續出せし墨染小說一名尼小說（女主人公絶望の境に陷り薙髮して尼に終る小說を言ふ）と比較して其眼光卓出注視點の一新生面を照し來りしを喜ぶ。

末段「是非とも此指環の爲に働いて可憐なる多くの少女達の行末を守り、玉のやうな乙女たちに、私の樣な轍を蹈まない樣致したいとの望を起し云々」は女史の手紙の意と相同うして詞異なるのみ讀んで茲に至り、思はず人の感を動かす、是れ或は著者の實歷に非ざるなきか（失言多罪）酸辛數奇の裡に成長したる人、不幸多涙の日月を試みし人、深更靜坐月下に對して本篇を讀まば感懷俯仰更に盡る所なかるべし。

此他、山田美妙齋の細評は改進新聞にあり、戶川殘花氏の雅評は日本評論にあり。何れも近來の傑作秀什と云へり。

婦人方に[illegible]廣告[illegible]女學雜誌が宜く候

第三版

百人一首講義

上製美本 五十錢 郵稅六錢
並製表裝 三十五錢 同 四錢

正月の稽古に宜し
歌留多遊びに宜し
遺物に宜し
詠歌に宜し

此百人一首講義は、歌の意味、文法、を極く分るやうに說明し、其上詠み手の畧傳と其歌を詠みたる時は何如なる塲合なりしかを一々分說し、小倉山紅葉の色々を一ときわにして、千古口に暗誦したる歌の心に、大光明を發たしむ。此講義を讀みて后ちに歌を朗吟すれば、味ひ新たなり、かるた遊びにも、歌の修業にも、遺ひ物にも、正月中の讀物にも、至つて宜し。

右につき**正誤** 右百人一首講義を去年中に女學雜誌新規注文前金拂込の人には無代にて呈上致候處、本年に入りて后ち誤つて同樣の廣告文掲載いたし候、但し致方無之に付前週迄に申込の分へは既に書籍配達せしと雖ども以后は之を廢し、且つ前回誤廣告文中の「本年內」とは去二十三年內の事にてありしを追報す。

女學雜誌社

家婢 十六七才にて溫良なる下婢を雇度（月給壹圓位）

神田宮本町一番地（開化樓ヨリ右横）**鈴木**

看護婦生徒募集廣告

看護婦生徒 十五名試驗之上募集ス志願之者ハ來三月卅一日迄ニ願書幷ニ履歷書差出スヘシ

但年齡滿廿年以上卅年以下獨身ニシテ身躰强壯ノ者ニ限ル規則書望ノ者ハ郵券七錢送付アリタシ

撿查槪目

讀書 規則書翻譯文
算術 加減乘除
作文 通常書簡ノ往復
書取

明治廿四年一月

東京慈惠醫院

WASON
HQ
1104
J74+
Jan. 1
no. 250

女學雜誌

第二百五十號
明治二十四年一月卅一日發

文明のお化け　ふみ子
婚姻箴　愛山生
浮雲胸　雲峯子
死刑論　撫象子
女學讀本編纂　社説

下六番町六番地
女學雜誌社

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY